

## 古墳とは？

古墳とは、3 世紀から 7 世紀にかけて日本全国に築造された巨大な墳墓のことである。死者を宝物とともに埋葬する塚を造る習慣はアジア大陸から伝来した。日本列島では、16 万基以上の古墳が発見されている。

古墳には、正方形、長方形、円形、そして鍵穴形など、さまざまな形がある。鍵穴形の形態には、入り口にあたる長方形の側と、その後ろに円形の玄室がある。上空から見ると全体の形が鍵穴のような形をしている。古墳の形として鍵穴形が最大であり、中でも最大のものは大阪府にあり、面積は約 32.3 ヘクタールをほこる。仁徳天皇（257?-399）の墓ではないかと考えられている。

古墳は、その所有者が富と権力を有している場合にのみ労働力を動員して築造された。古墳が大きいほど、その中に埋葬された人物の権力も大きかったと考えられている。古墳が築造された後、その斜面は握りこぶし大の石で覆われた。素焼きのオブジェや彫刻は墳丘の周囲に置かれ、儀式の際に使われた可能性がある。

初期の古墳の埋葬室は装飾が施されていないが、6世紀以降に造られた北部九州の古墳では彩色画や壁画が一般的となっている。九州の古墳の多くには壁画がある。故人は棺の内外に副葬品とともに埋葬された。出土品から、古代日本の文化や技術、そしてアジア諸国との交流について伺い知ることができる。初期の古墳からは、主に勾玉や青銅鏡、その他の儀式用の品々が発見されているが、6世紀以降は鉄製の武器や鎧などの武具も一般的となった。

大牟田市には数多くの古墳があり、中でも萩ノ尾古墳、潜塚古墳、黒崎観世音塚古墳が有名である。三池カルタ・歴史資料館では、地元の古墳から出土した品々が展示されている。